



競輪の補助事業

この事業は、競輪の補助により実施しています。  
<https://hojo.keirin-autorace.or.jp/>

< オリンピック・ムーブメント事業 >

# JOCオリンピック教室

## 実施報告書

兵庫県 神戸市立唐櫃中学校



公益財団法人 日本オリンピック委員会



## 「オリンピック教室」の実施にあたって

平成21年4月の学習指導要領から、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。中学校3年生では、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」現状を通して、オリンピックの意義を学習することになっています。そこで、JOCでは、中学校3年生の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から授業形式で行う「オリンピック教室」を実施してきました。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表としてオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められますが、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることが期待されます。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身が学ぶこともねらいとしております。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。「オリンピック教室」でのふれあいの中での学びが、教科の枠を越え、これからの社会や人生に活かせる資質や能力を育む一助になることを期待しております。また、この授業を通して、生徒の皆さんが、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現につながることも願っています。

令和4年4月

公益財団法人 日本オリンピック委員会

- 目的：オリンピック（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピック自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう。
- 事業名：JOCオリンピック教室
- 主催：公益財団法人 日本オリンピック委員会（JOC）
- 後援：スポーツ庁
- 協力：公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対象：中学2年生
- 講師：オリンピック（オリンピック出場経験アスリート） ※派遣オリンピックはJOCが選定
- 期間：2022年4月～2023年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数：80校程度
- 実施方法：クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

### 1コマ目 運動の時間 / 50分

身体を動かしながら生徒との距離を縮め、チームワーク、フェアプレー、身体を動かすことの楽しさ等を感じてもらいます。



### 2コマ目 座学の時間 / 50分

競技者人生を振り返り、自身が感じたオリンピックの価値を生徒に伝え、オリンピックをより身近に感じてもらいます。



**1コマ目**

**運動の時間 / 50分**

オリンピックの専門競技の技術指導(=スポーツ教室)ではなく、  
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶(5分)

準備体操(10分)

主運動(30分)

まとめ(5分)



自己紹介  
学習内容の確認



準備体操



主運動  
(作戦タイム等を受け、  
生徒が考える機会を作る)



運動の時間のまとめ

**2コマ目**

**座学の時間 / 50分**

国際オリンピック委員会(IOC)が推進する「オリンピックの価値」等を、  
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、  
あるいは実際にオリンピック競技大会に出場した経験等を通して、  
分かり易く伝えると同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、  
今後活かせるような学習内容

挨拶・自己紹介(10分)

オリンピックの価値を伝える(10分)

グループワーク(20分)

まとめ(10分)



学習内容の確認



写真・映像等を使用した  
自己紹介



オリンピック自身の経験に基  
づく「オリンピックの価値」等を  
伝える



個人またはグループワークで  
話し合った内容を発表



全体のまとめ  
記念撮影(クラス写真)

※時間は目安です  
※内容はオリンピックによって変動する場合があります

●時間割について

- ・1クラスにつき、運動の時間+座学の時間の順に、2時間連続で実施します。
- ・1コマ目の運動の時間は体育館で、2コマ目の座学の時間は当該クラスの教室で行います。
- ・原則1クラスの場合は3-4時限目、2クラスの場合は3-6時限目、3クラスの場合は1-6時限目の調整となります。
- ・1日に実施できるクラス数は最大3クラスまでです。4クラス以上実施する場合は2日間以上での調整となります。
- ・同じ時間に複数クラスを実施することはできません。

■ **オリンピック**：山崎 早紀 先生 (ソフトボール)【出場オリンピック／東京2020大会】

■ **期 日**：2023年2月7日(火)

■ **ク ラ ス**：2年1組／運動の時間

○自己紹介 ～ 授業の目的確認 ～ 準備体操



・ソフトボール競技で、東京2020大会に出場したと自己紹介。皆は今、取り組んでいることや、熱中していることがあると思うが、2時間を通してオリンピックバリューの3つの価値である、「エクセレンス」「フレンドシップ」「リスペクト」を念頭に、夢や目標に向かい、努力することの大切さや、どのように努力すれば夢や目標の達成に近付くことができるかを、皆で考える時間にしたいと、授業の目的を確認。その後、準備体操に移る。

○主運動 等



・準備運動は、先生対生徒で行う「体を使った後出しじゃんけん」を実施(全5回)。「グー」：体を小さく丸めてしゃがむ、「チョキ」：足を閉じたまま、両手を横に広げる、「パー」：両手足を大きく広げる。ルールは、「じゃんけんポン・ポン」のリズムでじゃんけんをし、生徒が後出して先生に勝つ。  
 ・主運動は、「ボール送りリレー」を実施(全4回)。3チームに分かれ、頭上から後ろの人にボールを送り、コーンを回ってゴールするまでのタイムを競う。3、4回目はボールを5球使用し、5往復するルールへ変更。



・運動の時間を振り返り、ボール送りリレーでは、4回目までのチームもタイムが縮まったことは、最後まで諦めずに頑張ったからだ。また、作戦タイムでは、沢山コミュニケーションを取り意見を出し合った。ボールの受け渡しを工夫し、声を掛け合い、仲間を思いやる姿は、オリンピックバリューの「フレンドシップ」と「リスペクト」にあてはまる。これからも自分のことだけを考えるのではなく、相手を思いやる気持ちを忘れてはほいと伝え、授業終了。

■ **オリンピック**：山崎 早紀 先生 (ソフトボール) 【出場オリンピック／東京2020大会】

■ **期 日**：2023年2月7日(火)

■ **ク ラ ス**：2年1組／座学の時間

○自己紹介～授業の目的確認～オリンピックの価値を伝える



・自己紹介の後、座学の時間は、自身のオリンピック出場までの経験を話し、夢に向かって努力することの大切さを皆に伝えていきたいと授業の目的を確認。北京2008大会後、正式競技からソフトボール競技が除外されたが、日本だけではなく、各国・地域の競技関係者が競技普及に尽力した結果、東京2020大会では再び実施競技として採用された。選手だけではなく、沢山の方の支援があったからこそ、競技復活が叶った。東京2020大会で獲得した金メダルと、大会で使用したクラブを披露。

○個人ワーク～グループワーク等



発問：目標に向かって努力していること、頑張っていることを書き出してみよう。

発表：エクセレンス：「初心に戻って練習する」「一日一日を無駄にしない」「苦手なことから逃げない」「限られた練習時間を有効に使う」等

フレンドシップ：「仲間との絆を深める」「試合に勝つために、チームのコミュニケーションを大切にする」「仲間を信じる」等

リスペクト：「規則正しい生活を送る」「思いやりの心を持つ」「素直な心を持つ」等



・座学の時間を振り返り、何事も諦めなければ、必ず夢は叶うということを忘れないでほしい。グループワークで、皆がそれぞれの夢や目標に向かって、何をどのように取り組むべきか、今頑張っていることを沢山発表してくれた。その努力を途中で諦めずに継続してほしい。次回のオリンピックで、ソフトボール競技はまた除外されてしまうが、またいつか復活するために、もっと競技を広め、自身の経験を沢山の人に伝える活動をこれからもしていきたいと話し、授業終了。

■ **オリンピック**：山崎 早紀 先生 (ソフトボール)【出場オリンピック／東京2020大会】

■ **期 日**：2023年2月7日(火)

■ **ク ラ ス**：2年2組／運動の時間

○自己紹介～授業の目的確認～準備体操



・ソフトボール競技で、東京2020大会に出場したと自己紹介。オリンピックバリューについて、エクセレンス：「卓越」、フレンドシップ：「友情」、リスペクト：「敬意／尊重」と説明。運動、座学の時間を通して、夢や目標に向かって頑張ることの大切さを伝えたい。そして、皆がその夢に近付くためには、どう頑張るかや、叶えるためにはどんな努力をすれば良いか等を皆自身が考える時間にしてほしいと授業の目的を伝え、準備体操に移る。

○主運動 等



・準備運動は、先生対生徒で行う「体を使った後出しじゃんけん」を実施(全14回)。「グー」：体を小さく丸めてしゃがむ、「チョキ」：足を閉じたまま、両手を横に広げる、「パー」：両手足を大きく広げる。ルールは、「じゃんけんポン・ポン」のリズムでじゃんけんをし、生徒が後出しで勝つ、または負ける。  
 ・主運動は、「ボール送りリレー」を実施(全4回)。3チームに分かれ、頭上から後ろの人にボールを送り、コーンを回って戻る。ボールを3つ使用し、3往復するタイムを競う。ボールを3つ使用する理由は、ソフトボールは3アウトでチェンジするからだと話す。



・運動の時間を振り返り、ボール送りリレーでは身長差を考慮して、ボールの受け渡し方法を工夫したり、全員が素早く折り返し地点のコーンを回る等の具体的な作戦を考え、皆で協力しながら取り組むことができた。コミュニケーションを取ることや、相手を思いやる気持ちは、オリンピックバリューの「フレンドシップ」と「リスペクト」にあてはまる。座学では、運動の時間に感じたことを振り返りながら、オリンピックバリューについて更に皆で考える時間にしたいと伝え、授業終了。

■ **オリンピック**：山崎 早紀 先生 (ソフトボール)【出場オリンピック／東京2020大会】

■ **期 日**：2023年2月7日(火)

■ **ク ラ ス**：2年2組／座学の時間

○自己紹介～授業の目的確認～オリンピックの価値を伝える



・ソフトボール競技で、東京2020大会に出場したと自己紹介。獲得した金メダルと使用していたグラブを披露。自身のオリンピック出場までの経験を話し、皆に夢に向かって努力することの大切さを伝えていきたいと、授業の目的を確認。スライドを見ながら、ソフトボールの日本代表選手は何人が等の質問をする。また、強化合宿は年間170日もあり、選手の年齢層も20代～40代と幅広い。その中で金メダル獲得に向けたチーム作りをするためには、お互いがコミュニケーションを取ることとても大切にした。

○個人ワーク～グループワーク等



発問：目標に向かって努力していること、頑張っていることを書き出してみよう。

発表：エクセレンス：「志望校合格のため日々努力する」「自主練習を沢山する」「自分のポジション以外も練習する」「日々の練習を頑張る」等

フレンドシップ：「友達とのコミュニケーションを大切にする」「周りをよく見て、コミュニケーション能力を高める」等

リスペクト：「道具を大切に扱う」「提出物をきちんと提出する」「手伝ってくれた人に恩返しをする」「素直な心を持つ」「忘れ物をしない」等



・座学の時間を振り返り、グループワークでは、皆が目標に向けて具体的に努力していること、頑張っていることを発表してくれた。オリンピックバリューは、オリンピックに出た選手だけが感じるものではなく、皆にとつての目標もすべてオリンピックバリューにあてはまる。努力することや、最後まで諦めないことはとても大切だ。これから、皆が様々なことにチャレンジする上で、今日学んだことを思い出して、努力することを途中で諦めず、継続して頑張してほしいと伝え、授業終了。

■集合写真

・2年1組



・2年2組



■ 記念品贈呈

・2年1組



・2年2組



■ 修了証贈呈

